

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(商業専門課程 コンピュータ会計科) 2023年度									
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	実務 経験 のある 教員	実務経験内容
必修	選択必修	自由選択							
○			法学 I	現役社会保険労務士が講義を行う。実定法学を補う学問であると位置づけ、法学をわかりやすく解説していく。	2 年次	80	2	○	現役社会保険労務士
	○		労働法 I	現役社会保険労務士による講義を行う。終身雇用制度の終焉や能力主義化など、日本企業の人事労務管理は変貌を遂げ、多くの課題に直面している。こうした実態をふまえ、現代の人的資源管理の基本的な考えと機能をわかりやすく解説する。	2 年次	80	2	○	現役社会保険労務士
○			ビジネスマナー I	名刺の交換、電話の応対、言葉遣い、報告・連絡・相談などの、社会人にとって必須の知識であるビジネス上の礼儀や作法を学ぶ。	1 年次	80	2	○	航空会社にて客室乗務員を経験
	○		ビジネスマナー II	ビジネスマナー I から継続して、さらに幅広いビジネスマナーを学ぶ。	1 年次	80	2	○	航空会社にて客室乗務員を経験
	○		所得税法 I	税理士による授業を行う。難解である条文及びテキストの文章をわかり易くかみくだいて説明する。経理事務員として必要な実務的な知識、例えば源泉徴収事務・給与計算・年末調整等テキスト外の知識・技術についても補足的な説明を加える。	1 年次	80	2	○	現役税理士
	○		所得税法 II	税理士による授業を行う。難解である条文及びテキストの文章をわかり易くかみくだいて説明する。経理事務員として必要な実務的な知識、例えば源泉徴収事務・給与計算・年末調整等テキスト外の知識・技術についても補足的な説明を加える。	2 年次	80	2	○	現役税理士
	○		法人税法 I	税理士による授業を行う。会社の所得に課す法人税の知識は、経理業務はもとより営業をする上でも必要である。さまざまな知識について実務内容を加え実践的に学習する。	1 年次	80	2	○	現役税理士
	○		法人税法 II	税理士による授業を行う。会社の所得に課す法人税の知識は、経理業務はもとより営業をする上でも必要である。さまざまな知識について実務内容を加え実践的に学習する。	2 年次	80	2	○	現役税理士
	○		消費税法 I	税理士による授業を行う。難解である条文及びテキストの文章を解り易くかみくだいて説明する。一般間接税である消費税を計算から納付まで細かく実務的内容を解説する。	1 年次	80	2	○	現役税理士
	○		消費税法 II	税理士による授業を行う。難解である条文及びテキストの文章をわかり易くかみくだいて説明する。一般間接税である消費税を計算から納付まで細かく実務的内容を解説する。	2 年次	80	2	○	現役税理士
	○		相続税法 I	税理士による授業を行う。難解である条文及びテキストの文章を解り易くかみくだいて説明する。	1 年次	80	2	○	現役税理士
	○		相続税法 II	税理士による授業を行う。難解である条文及びテキストの文章をわかり易くかみくだいて説明する。	2 年次	80	2	○	現役税理士
	○		ファイナンシャルプランニング I	社会保険労務士・FP事務所所員による講義を行う。現代のファイナンスについて学ぶ。経営管理はもちろん自己管理、自己開発に必要な知識といえる。また、FP技能検定3級の習得を目指す。	1 年次	80	2	○	JAIFA所員
	○		ファイナンシャルプランニング II	ファイナンシャルプランニング I から継続して社会保険労務士・FP事務所所員による講義を行う。現代のファイナンスについて学ぶ。経営管理はもちろん自己管理、自己開発に必要な知識といえる。また、FP技能検定3級以上の習得を目指す。	2 年次	80	2	○	JAIFA所員
	○		経営学入門	企業自体について学び、競争、組織、消費者などの基礎的なマネジメントや、ヒト、モノ、カネなど資源マネジメントを学ぶ。また、成長と再生、イノベーション、国際化、社会的責任などについて学ぶ。	1 年次	80	2	○	マネジメント経験

		○ 経営学	現実の企業が直面している問題を考えながら、経営学分野の基礎的概念を学習する。	1 年次	80	2	○	マネジメント経験
○		工業簿記 I	製造業界にとっては、黒字・赤字を左右する指標を見極める材料となる、仕入れから加工、製品の販売に至るまでの会計を扱う。	1 年次	80	2	○	簿記塾経営
○		工業簿記 II	工業簿記 I で学んだものを発展させ、様々なものを学習し、日商簿記検定 2 級工業簿記程度の力を身につける。	1 年次	80	2	○	簿記塾経営
		○ 原価計算 I	全経簿記検定 1 級工業簿記や日商簿記 1 級原価計算等に対応するべく種々の原価計算を学ぶ。	2 年生	80	2	○	簿記塾経営
合計					1520	38		

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(工業専門課程 ハイテク情報科) 2023年度									
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	実 務 経 験 の あ る 教 員	実務経験内容
	選 択 必 修	自 由 選 択							
	○		法学	実定法学を補う学問であると位置づけ、法学をわかりやすく解説していく。	2 年 次	80	2	○	現役社会保険労務士
	○		労働法 I	終身雇用制度の終焉や能力主義化など、日本企業の人事労務管理は変貌を遂げ、多くの課題に直面している。こうした実態をふまえ、現代の人的資源管理の基本的な考えと機能をわかりやすく解説する。	2 年 次	80	2	○	現役社会保険労務士
	○		ビジネスマナー I	名刺の交換、電話の対応、言葉遣い、報告・連絡・相談などの、社会人にとって必須の知識であるビジネス上の礼儀や作法を学ぶ。	1 年 次	80	2	○	航空会社にて客室乗務員を経験
	○		ビジネスマナー II	ビジネスマナー I から継続して、さらに幅広いビジネスマナーを学ぶ。	1 年 次	80	2	○	航空会社にて客室乗務員を経験
		○	Java言語 I	IT企業にてSEとして勤務しJavaを用いた開発を行ってきた講師によるプログラムの基本的知識の講義。 オブジェクト指向言語であるJavaについて基本的なことを学ぶ。	2 年 次	80	2	○	Java開発経験者
		○	Java言語 II	IT企業にてSEとして勤務しJavaを用いた開発を行ってきた講師によるプログラムの基本的知識の講義。 オブジェクト指向言語であるJavaについて基本的なことを学ぶ。	2 年 次	80	2	○	Java開発経験者
		○	プログラミング I	汎用性が高く、人気の軽量プログラミング言語であるPython (パイソン) を学習する。	1 年 次	80	2	○	プログラム受注開発会社経営
		○	プログラミング II	汎用性が高く、人気の軽量プログラミング言語であるPython (パイソン) を学習する。	1 年 次	80	2	○	プログラム受注開発会社経営
		○	Java言語演習 I	Javaプログラムに関する演習を通じて知識と技術の定着を図る。また、IT企業にてSEとして勤務しJavaを用いた開発を行ってきた講師により現実の問題への応用についても紹介する。	2 年 次	80	2	○	Java開発経験者
		○	Java言語演習 II	Javaプログラムに関する演習を通じて知識と技術の定着を図る。また、IT企業にてSEとして勤務しJavaを用いた開発を行ってきた講師により現実の問題への応用についても紹介する	2 年 次	80	2	○	Java開発経験者
		○	プログラミング演習 I	プログラミング I の講義に続いて、Python (パイソン) を学習する。	1 年 次	80	2	○	プログラム受注開発会社経営
		○	プログラミング演習 II	プログラミング II の講義に続いて、Python を用いたプログラム作成演習を行う。	1 年 次	80	2	○	プログラム受注開発会社経営
	○		C言語 I	まず前半では、エディタやCコンパイラなどの環境設定、およびファイル操作・メール送受信など計算機の基本的な利用法を学習する。続いてC言語による基礎的なプログラミング、具体的には、接続、選択、反復の制御構造と配列を含むデータ型、それらを用いた最大最小問題やソートの方法、関数、再帰、ポインタ等に関する文法解説を、例題ソースを交えて学習する。	1 年 次	80	2	○	C言語開発経験者
		○	C言語 II	情報システムの実現に必要なとなるファイルの入出力やそれに伴うデータの入出力処理、構造体の扱いなどCプログラムの標準的な構成を理解させる。さらに、自由課題をグループで取り組むことにより、システムの構造化プログラミング、分割コンパイラ、対話型プログラムといった、より高度なプログラム技法を修得させるばかりでなく、PBLを通じた情報システム開発の過程(企画・設計・検証)を体験させる。	1 年 次	80	2	○	C言語開発経験者
		○	C言語演習 I	C言語 I の講義に続いて、各回の内容に関するプログラム演習を実際に計算機を使って実施する。	1 年 次	80	2	○	C言語開発経験者
		○	C言語演習 II	C言語 II の講義に続いて、各回の内容に関するプログラム演習を実際に計算機を使って実施する。	1 年 次	80	2	○	C言語開発経験者
					合計	1280	32		